

「若者が主役!地域まるごと活性化事業」

宿題 1 日で終わらせよう 夏休みチャレンジ教室

夏休みチャレンジ教室実行委員会

高梁市宇治公民館

【事業の概要について】

夏休みチャレンジ教室実行委員会は、岡山県高梁市に居住する、主として小学生児童とその保護者を対象として、「学校では学べない体験にチャレンジしよう」を主題に、市教育委員会と連携して独自の教室を開講した。

なお、同教室は昨年度開講した里山スクールが前身である。さとやまスクールは、高梁市宇治町、松原町を対象に開講したハンドメイド教室で、夏休みチャレンジ教室同様、「学校では学べないこと」を主題とし、多くの参加者から好評を得た。里山スクールの精神はそのままに、対象を高梁市内全域まで広げたものが「夏休みチャレンジ教室」である。

申込みチラシ

(学年ごとにコースを分けて募集)



夏休みチャレンジ教室

にちじ：第1回 7月27日(水) 第2回 8月24日(水)
10:00~12:00

主催：夏休みチャレンジ教室実行委員会、地域おこし協力隊
後援：高梁市教育委員会

けんきゅう、工作…チャレンジ教室だけのとくべつじゅせよ! 学校では学べないたいけんにもチャレンジしよう!

詳しくは裏面を見てね

各クラスの紹介

- じゅう工作(高梁城南高校 デザイン科の先生、生徒のみなさんが教えてくれるよ)
- じゅうけんきゅう(川の魚を学ぼう!)
- ☆しゃくだいそうだんコーナーもあるヨ!

対象：高梁市内の小学生
定員：各コース20名
参加費：無料

申し込み方法

保護者氏名	住所	緊急連絡先
		(自宅) - - (携帯) - -

参加者氏名	学年	小学校名	参加希望日
男			第1回 7月27日
女		小学校	第2回 8月24日

両面に書きたいと



スケジュール

時間	1~3年生コース	4~6年生コース
10:00~11:00	【けんきゅう】 川の魚を学ぼう! (金鑑賞)	【工作】 たべものキーホルダー (工作制作)
11:00~12:00	【工作】 オリジナル カンバッジ (工作制作)	【けんきゅう】 川の魚を学ぼう (金鑑賞)
12:00~ (自由解散)	【説明会教室】 クラスでわからなかったことや、しゃくだいに ついてのしつもんだいかんばい	

各クラス紹介

【工作】高梁城南高校の先生、生徒のみなさんが教えてくれるよ!
1~3年生コース…みんなかくマジンで、きみだけのかんバッジを作ろう!
4~6年生コース…まるでほんもの! たべものにそっくりのオリジナル
キーホルダーを作ろう!

【けんきゅう】 川の魚を学ぼう!
高梁川に住むかわいくおもしろいお魚たちを
つれてくるよ! 魚が大好きな先生といっしょに
魚をかんとしてお絵かきしよう。

申し込み方法

※裏面の参加申込書に記入し各小学校へ提出してください。高梁市教育委員会
社会教育課でも受け付けています。FAX・持参にてお申し込みください。
(FAXでお申し込みの場合は行き違いを防止するため、お手数ですが下記
お問い合せ先に電話でご確認ください)
応募者多数の場合は、抽籤のうえ当選者に22日(金)までに連絡します。

お申し込み・お問合せ先

高梁市地域おこし協力隊 担当：長谷川
電話：080-1393-9819 メール：hasogawa0420@gmail.com
FAX：0866-21-1510 (高梁市教育委員会社会教育課)

※申込み締切は 7月 15日(金)までです。

【事業内容について】

開講時期を考慮し、体験内容は「夏休みの宿題」をテーマに設定し、2講座を開いた。各教室に於ける体験内容は次の通りである。

①川の魚を学ぼう!

②工作教室(低学年…オリジナル缶バッジ作り

高学年…食べ物そっくりキーホルダー作り)

上記②の工作教室は参加児童の学年に応じて内容を変更した。

企画段階では読書感想文講座の開講も予定されていたが、児童が親しみやすいよう、より「体験」に重きを置き省略した。

開講は7月27日、8月24日の二回。開講日によって内容に変更は加えず。

会場には高梁市の公民館(高梁総合文化会館)を使用。

その他の公民館については、チラシを複数枚置き、宣伝協力を依頼した。

また、宣伝については、市教育委員会の協力を得て、市内各小学校にて児童にチラシを配布した。

参加児童は低学年(1~3年生)、高学年(4~6)年生に分け、1時間ごとの交代制で①、②の教室とも体験してもらうこととした。

7月の教室では41名、8月の教室では26名の児童の申込みがあった。

<教室の内容の詳細>

川魚教室では、実際に川魚を持ち込み、魚の生態、種別ごとの特徴などを説明した。児童には魚の絵を描いてもらうことで、楽しく学べるように工夫した。



工作教室では、市内の高校（高梁城南高校）の先生、生徒に講師を依頼。昨年度の里山スクールでは、基本的に市外のハンドメイド作家に講師を依頼していたが、この点で地域の若者の参画を促すことができた。

←川魚教室の様子。水槽の中の川魚を観察する。



↑工作教室。地元高校の先生、生徒の指導を受ける。



↑高学年の児童が作った食べ物キーホルダー。

【成果や課題、今後の目標】

1月には宇治町、松原町の小学生、及びその保護者を主な対象に、昨年度同様の里山スクールを開講。昨年度同様、大変好評を博した。

来年度以降、今年度同様に高梁市内全域を対象とした事業を行うのか、昨年度のように特定の地域を対象とした事業とするのかは未定。

しかしながら、昨年度から今年度にかけて、対象を広げたことがより多くの児童の参加、という結果に繋がっているのは自明であり、来年度以降の事業決定に於いてこの結果は無視できない要因である。

一方で、会場としての使用、及び宣伝協力に止まっている公民館との連携を如何に強化してゆくか、ということが今後の課題である。こちらも視野に入れて、次の事業を検討してゆく所存である。